

# ICT を活用した新聞制作による協同的な学びの広がり と新聞の

## 「見出し」付けから情報リテラシーを育む可能性

伊吹 侑希子（京都先端科学大学附属中学校高等学校）

### 1 研究のねらい

クラウド型新聞編集アプリ「ことまど」を使って新聞を制作する学習活動を通じて、ICT を活用することで適切に情報を集め、必要な情報にたどりつき、伝えたい情報を的確に表現できているか検証することにした。明らかにしたいことは次の 2 点である。

- ① 新聞の見出しをつけるにあたり、情報を適切に取捨選択し、伝えたい内容を効果的に表現する情報リテラシーが育まれているか。
- ② ICT を取り入れ、グループで新聞制作を行う学習活動から「個別最適な学び」と「協同的な学び」を一体的に行い効果的な学びが得られるか。

### 2 授業の概要

2022 年度の高校 2 年古典 B の授業で、「随筆を読み解き現代の夏の京都と比較して新聞紙面づくり」を行う探究学習を設定した。まず、『枕草子』第 207 段「五月ばかりなどに」と、『徒然草』の第 19 段「折節の移り変はるこそ」を読解した。そして、この授業期間に実施した校外学習と京都市内をめぐるフィールドワークで、京都の初夏を感じる写真を各自で撮影した。そしてクラウド型新聞編集アプリ「ことまど」を用いて、『枕草子』が書かれた平安時代と現代と、『徒然草』が書かれた鎌倉時代と現代とをそれぞれ比較し、夏という季節の感じ取り方の相違点についてまとめ、新聞のコラムとして、令和における夏の訪れをテーマに書くように指示した。「ことまど」は、クラウド型で主見出し・脇見出し・記事が入力できるようになっている。グループメンバーと情報共有をしながら、時間や場所を選ばずに編集でき、教員も進捗状況に合わせて適宜アドバイスをを行った。

### 3 考察

新聞制作後のふり返りで、「紙でまとめる新聞作成か、ICT を用いた新聞作成かどちらがよかったか」の質問について、85.6%が ICT を活用した編集が良いと回答し、理由として ICT ならではの共同作業のしやすさと意見のまとめやすさを挙げていた。ICT によって「協同的な学び」を効果的に取り組んでいることが見て取れた。また、グループによって問題点が異なり、ICT を活用することで、それぞれに見合ったアドバイスをすることができ「個別最適な学び」の実現につながった。また、「見出し」によってグループの価値判断が顕著となった。

### 4 展望

新聞制作アプリを使うことで、見出しのつけ方や写真の選び方によって、グループの情報選択のねらいがわかりやすく、伝えたいことをいかに工夫すればよいか考えられた。GIGA スクール構想も進む中、今後も ICT を活用した NIE の授業の枠組みを模索したい。